

2023年度第2四半期 決算説明会

積水樹脂株式会社

東証プライム 証券コード：4212

2023.11.30

1. 2023年度 第2四半期 決算概要

2. 2023年度 通期業績予想

3. ビジョン2030実現に向けた取り組み

2023年度 第2四半期 決算概要

売上高 : 工期遅延影響などにより減収
 営業利益 : 売上高減少および戦略投資増加により減益

■ 連結業績

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2022年度 第2四半期累計		2023年度 第2四半期累計			
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比	
					増減額	伸長率
売上高	29,219	100.0%	27,886	100.0%	△1,332	△4.6%
営業利益	3,617	12.4%	2,529	9.1%	△1,088	△30.1%
経常利益	3,892	13.3%	2,837	10.2%	△1,054	△27.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,490	8.5%	1,944	7.0%	△545	△21.9%

2023年度 第2四半期 連結営業利益の前年同期比増減

■ 連結業績

(注)金額は単位未満切捨

(百万円、%)	2022年度 第2四半期累計		2023年度 第2四半期累計			
	実績 構成比	実績 構成比	計画比		前年同期比	
			増減額	達成率	増減額	伸長率
売上高	29,219 100.0%	27,886 100.0%	△2,113	93.0%	△1,332	△4.6%
売上総利益	8,862 30.3%	8,430 30.2%	△669	92.6%	△432	△4.9%
販売費・一般管理費	5,245 18.0%	5,901 21.2%	△98	98.4%	+656	+12.5%
営業利益	3,617 12.4%	2,529 9.1%	△570	81.6%	△1,088	△30.1%

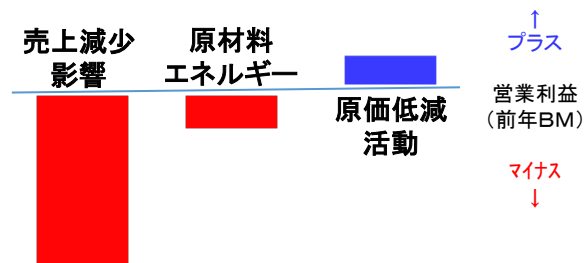
売上総利益率：前年同期比△0.1pt

販売費・一般管理費：不要不急な経費を抑えながら、
将来につながる**戦略的投資を計画通り実施**
(採用、事務所移転・リニューアル、
給与改定、販売力強化、DX化 など)

前年同期比

■ 売上総利益の減少 前年同期比△432百万円

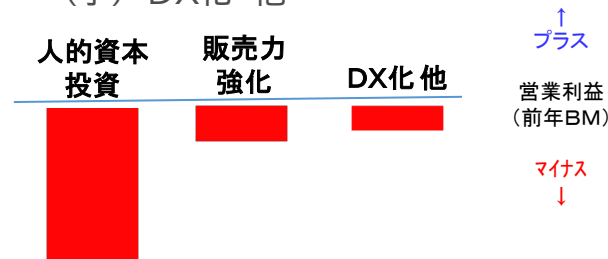
- (大) 売上高減少による影響
- (小) 原材料価格・エネルギー高騰
- + (小) 原価低減活動 他



■ 販売費・一般管理費の増加

前年同期比+656百万円

- (大) 人的資本投資
 - ・採用・給与改定
 - ・事務所移転・リニューアル 他
- (小) 販売力強化
- (小) DX化 他



2023年度 第2四半期 貸借対照表

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2022年度 期末	2023年度 第2四半期 期末	増減
流動資産	81,062	61,684	△19,378
固定資産	58,303	59,120	+816
資産合計	139,366	120,804	△18,562
流動負債	24,038	20,615	△3,422
固定負債	3,738	3,863	+124
負債合計	27,776	24,478	△3,298
純資産合計	111,589	96,325	△15,263
負債純資産合計	139,366	120,804	△18,562
自己資本比率	78.9%	78.4%	△0.5pt

自己株式取得により、流動資産および純資産が減少

2023年度 第2四半期累計 キャッシュ・フロー

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2022年度 第2四半期 累計	2023年度 第2四半期 累計	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	3,079	4,002	+923
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,323	△81	+3,242
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,538	△18,098	△15,559
現金及び現金同等物に係る 換算差額	399	386	△13
現金及び現金同等物 増減額 (△は減少)	△2,382	△13,791	△11,408
現金及び現金同等物 期首残高	47,031	44,905	△2,126
現金及び現金同等物 期末残高	44,648	31,114	△13,534

自己株式取得により、現金及び現金同等物が減少

2023年度 第2四半期 事業概要

いつもを変える。
豊かに変える。

いつもの道。いつもの建物。いつもの風景。
あなたのいつもをもっと快適に。
積水樹脂は複合化技術を活かした、
新しい価値を創造・提案します。



2023年度 第2四半期 公共分野

- 売上高
 - ・都市環境関連事業 : 工期遅延等の影響を受け、減収
 - ・交通・標識関連事業 : 交通安全製品の設置物件減少、工事発注の遅れが影響し、減収
 - ・景観関連事業 : 橋梁の新設や修繕向けが好調で増収
 - ・スポーツ施設関連事業 : 新規の大型物件が減少したことにより減収
 - ・関連グループ会社事業 : 前期の大口物件の反動により減収

- セグメント利益 : 売上高減少および一部製品の原材料価格高騰影響による売上総利益の減少と、将来につながる戦略的投資を実施したことによる販売費・一般管理費の増加によって減益

■ セグメント別業績

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2022年度 第2四半期累計		2023年度 第2四半期累計			
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比	
					増減額	伸長率
売上高	12,429	100.0%	11,601	100.0%	△828	△6.7%
セグメント利益	1,540	12.4%	755	6.5%	△785	△51.0%

<公共分野> 都市環境関連事業 ・ 交通・標識関連事業

- ・**防音壁材**は、吸音性能や耐久性が評価され高速道路リニューアル工事向けに採用されたものの、工期遅延等の影響を受け、前年同期を大きく下回る成績
- ・**交通安全製品**は、車線分離標「ポールコーン」が設置物件減少の影響を受け低調に推移するとともに、電子表示でドライバーに情報を伝える「オプトマーカ―」についても、工事発注の遅れが影響し売上減少
- ・**路面標示材**は、自転車道整備や通学路の交通安全向けにカラー標示材が採用されるなど、堅調な成績



車線分離標「ポールコーン」



路面標示材

<公共分野> 景観関連事業 ・ スポーツ施設関連事業

- ・**防護柵製品**は、交差点安全対策用途が前期の設置物件増加の反動を受けたものの、通学路や歩道における歩行者の乱横断防止用途の設置が進み、前年同期並みに推移
- ・**高欄**は、投物防止やめかくし機能を備えた製品が橋梁の新設や修繕向けに設置が進むなど、前年同期を大きく上回る成績
- ・**人工芝**は、新規領域となるハードコート向けやインドア向けにテニスコート用途の製品が採用されたものの、新規の大型物件が減少したことにより、売上減少



高欄



グラウンド用人工芝

<公共分野> 関連グループ会社事業

- ・橋梁などのコンクリート構造物の劣化や老朽化による剥落を防ぐ**コンクリート片剥落防止システム**は、前期の大口橋梁修繕物件の反動を受け、売上減少
- ・欧州における**交通安全製品**は、車線分離標「ポールコーン」が設置物件減少により低調に推移したものの、車止めやカーブミラーの受注が増加したことにより、前年同期を上回る成績



コンクリート片剥落防止システム
[日本ライナー株式会社]



カーブミラー・車止め[ジスロン(ヨーロッパ)B.V.]

2023年度 第2四半期 民間分野

- 売上高
 - ・住建関連事業 : メッシュフェンスやめかくし塀が好調な成績を収め、増収
 - ・総物・アグリ関連事業 : 梱包結束用バンドの汎用品の需要低迷、アグリ関連製品の資材買い控え等の影響を受けて減収
 - ・関連グループ会社事業 : 防音パネルの受注減少、デジタルピッキングシステム製品の海外での物件延期の影響により減収

- セグメント利益 : 売上高減少による売上総利益の減少、将来につながる戦略的投資を実施したことによる販売費・一般管理費の増加によって減益

■ セグメント別業績

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2022年度 第2四半期累計		2023年度 第2四半期累計			
	実績	構成比	実績	構成比	前期比	
					増減額	伸長率
売上高	16,789	100.0%	16,285	100.0%	△504	△3.0%
セグメント利益	2,359	14.1%	2,158	13.3%	△200	△8.5%

<民間分野> 住建関連事業

- ・メッシュフェンスは、施工性やお客様のニーズに合わせた納期対応力が評価され、堅調に推移
- ・めかくし塀は、物流施設等の活況分野への提案を強化したことに加えて集合住宅や商業施設向けの受注も相まって、好調な成績
- ・防音めかくし塀は、前期の大口物件の反動はあったものの、近隣騒音対策向けに需要は継続し、前年同期並みに推移
- ・自転車置場は、集合住宅向けが好調となるなど、売上に寄与



メッシュフェンス



防音めかくし塀

<民間分野> 総物・アグリ関連事業

- ・梱包結束用バンドは、3R(リデュース・リユース・リサイクル)に対応した製品の提案を強化したものの、汎用品の需要低迷の影響を受け、低調に推移
- ・ストレッチフィルム包装機は、物流現場の人手不足による省人化ニーズの高まりを背景に、好調な成績
- ・アグリ関連製品は、幼齢木を保護する資材が獣害対策用途として各地で採用され売上に寄与したものの、農業・園芸資材ともに資材買い控え等の影響を受け、大幅に売上減少

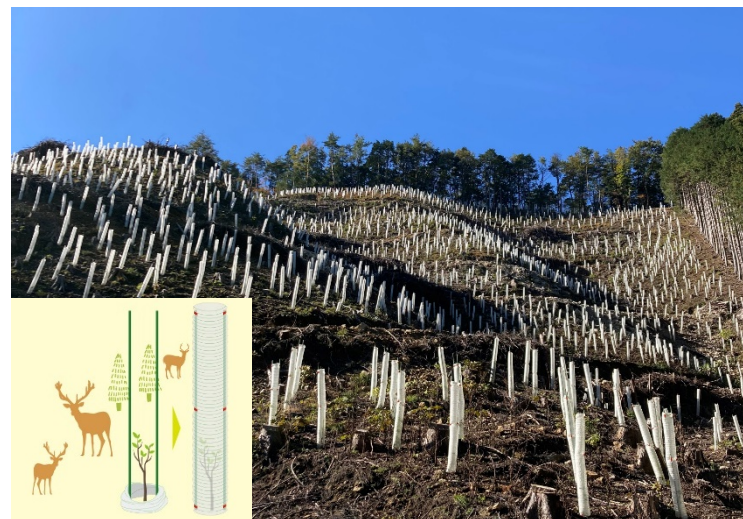


CO₂排出量 約50%削減 (注2)

(注1) 着色剤などの添加剤を除く
(注2) CO₂算定範囲：「原料調達からバンド製造」で比較した当社試算値



梱包結束用バンド



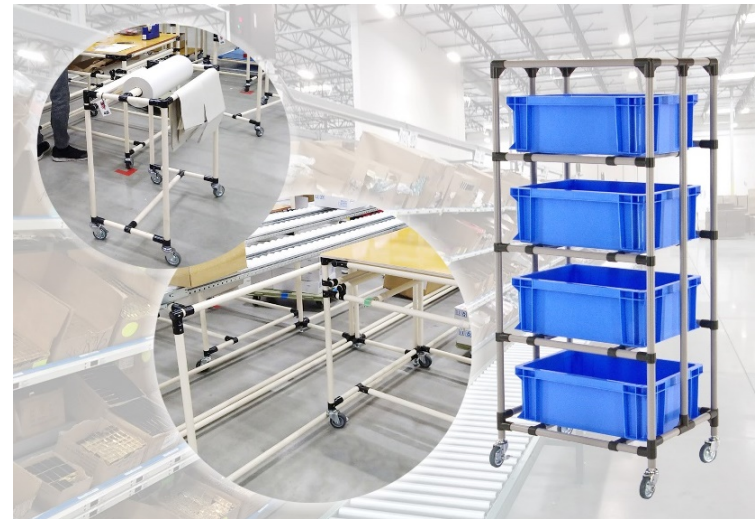
幼齢木保護資材

<民間分野> 関連グループ会社事業

- ・**アルミ樹脂積層複合板**は、看板用途の製品が売上に寄与したものの、防音パネルの受注が減少したことにより、前年同期を下回る成績
- ・**組立パイプシステム製品**は、電機製品などの主要ユーザー向けが減少したものの、新型コロナの規制緩和に伴い各種イベントへのレンタル向けが売上に寄与するなど、堅調に推移
- ・**デジタルピッキングシステム製品**は、国内での売上は伸ばしたものの、海外での物件延期が影響し大幅に売上減少



仮設防音パネル[積水樹脂プラメタル株式会社]



組立パイプシステム製品[スペースシア株式会社]

1. 2023年度 第2四半期 決算概要

2. 2023年度 通期業績予想

3. ビジョン2030実現に向けた取り組み

2023年度 通期連結業績予想

■ 通期業績予想は、期初の公表値(4月28日)から変更無し

- 販売面**
- ・総合力・設計対応力を活かし、交差点・通学路の安全対策をはじめ、住宅・物流市場など、活況な分野を中心とした製品提案に注力
 - ・電力インフラ関連や河川流域における浸水被害対策など、新領域・分野を開拓
 - ・工事遅延または発注遅延物件のフォローアップ

- 利益面**
- ・売上増分効果に加え、戦略購買や原価低減活動などを実行し、利益を確保
 - ・将来を担う人財への投資、研究開発の強化など、将来に繋がる各種施策は継続して推進

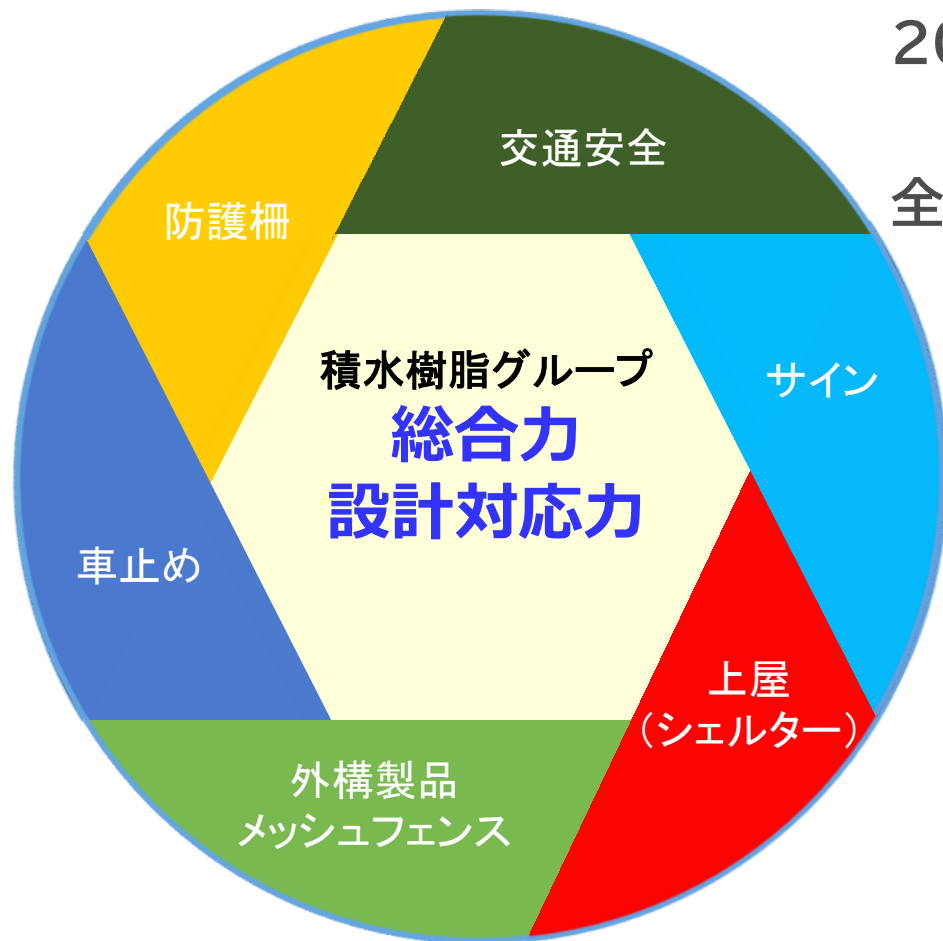
■ 連結業績予想

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2022年度		2023年度 [業績予想]			
	実績	構成比	予想	構成比	前期比	
					増減額	伸長率
売上高	65,897	-	68,000	-	+2,102	+3.2%
営業利益	9,007	13.7%	9,100	13.4%	+92	+1.0%
経常利益	9,501	14.4%	9,600	14.1%	+98	+1.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,653	10.1%	6,700	9.9%	+46	+0.7%

総合力・設計対応力を活かした製品提案に注力

総合力・設計対応力を活かし、売上のトップライン向上を図る



2023年4月に新設した
市場開発推進室や技術営業推進室を中心に、
全国の駅前広場や、パークレットなど
街づくりのシーンにおいて、
総合力を活かした提案営業を
積極的に展開しております。



総合力・設計対応力を活かした製品提案に注力

サステナビリティ貢献製品 EXの販売を促進し、売上のトップライン向上を図る

宅配便の再配達削減に貢献する 「集合住宅向け宅配ボックス」



簡単に操作でき、解錠のたびに暗証番号が自動的にリセットされ、番号の漏洩を防止

工場・物流施設の省人省力化に貢献する RFID誤認識を解決する「透明電波吸収・遮蔽パネル」

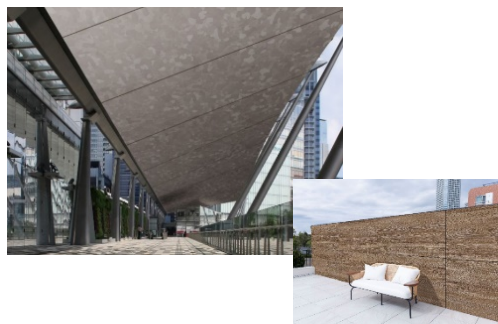


パネル設置



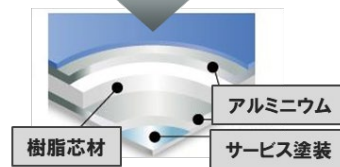
読み取り対象の電子タグだけを正確に読み取り

天井等の取付作業の簡略化や、輸送効率の向上に貢献する 不燃、且つ、軽量のアルミ樹脂積層複合板「彩アート 不燃」 (国土交通省 不燃認定製品)



“彩アート”シリーズを使用したビルの通路天井パネル・バルコニー壁面(イメージ)

表面加飾
(ダイレクトデジタル加飾)

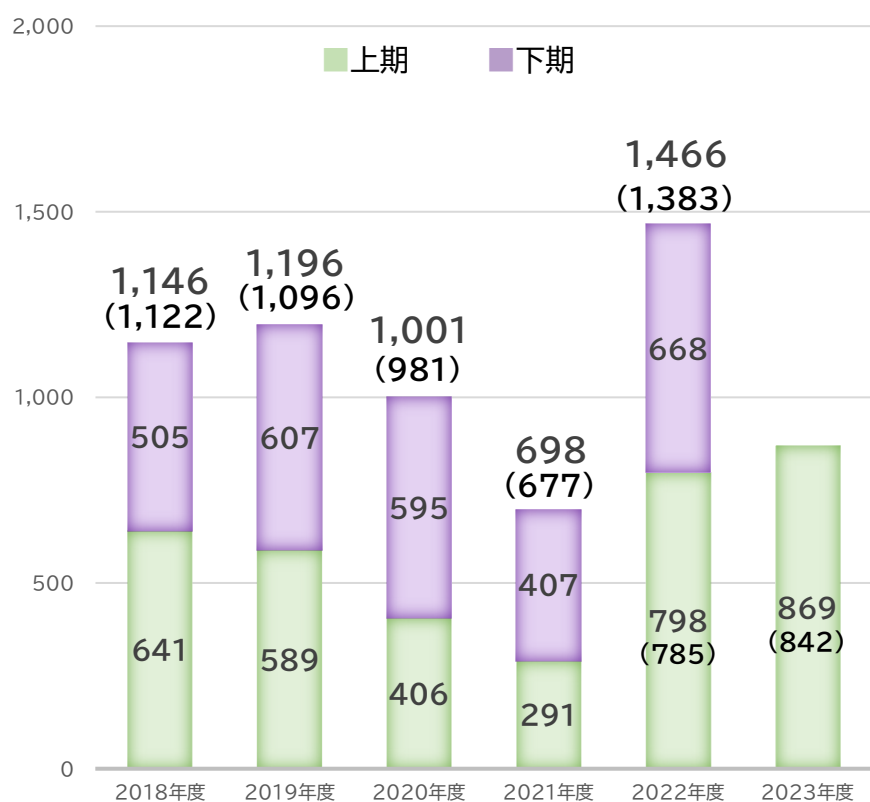


(加飾用アルミ樹脂積層複合板)

設備投資・減価償却費の実績推移

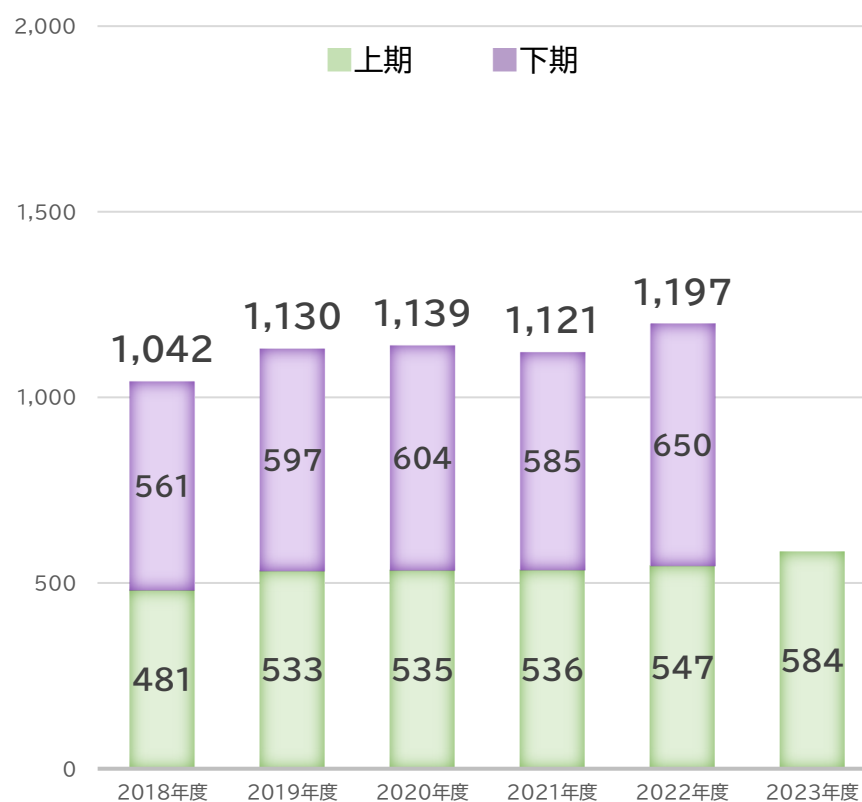
単位:百万円/金額は単位未満切捨

設備投資(有形及び無形固定資産)



※()表記は有形固定資産のみ

減価償却費



株主還元（自己株式取得）

■ 自己株式取得について

資本効率の改善および1株当たり利益の増大を図るとともに、
経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行

<2023年度>

■ 自己株式取得

【取得する期間：2023年5月1日～2024年3月29日】

2023年4月27日 取締役会決議
取得株数 100万株(上限)
取得金額 22億円(上限)



2023年7月31日 取締役会決議
取得株数 850万株(上限)
取得金額 204億円(上限)

(注)金額は単位未満切捨

【現在の進捗】

取得株数 750万株
取得金額 167億円

2023年8月1日、750万株の自己株式を取得(実績)

取得した株式	7,500,000株
株式の取得金額	16,740,000,000円
取得日	2023年8月1日

- ・当社の主要株主である筆頭株主及びその他の関係会社に該当する積水化学工業株式会社が、その保有する当社普通株式の一部(7,500,000株)を売却。
- ・この度の異動により積水化学工業株式会社は、当社の主要株主である筆頭株主及びその他の関係会社から外れますが、当社は引き続き事業面における良きパートナーとして積水化学工業株式会社と連携を図る。

株主還元（自己株式消却）

■ 自己株式消却について

<2023年度>

■ 自己株式消却

消却株数 200万株 [消却日：2023年5月25日]

消却株数 800万株 [消却日：2023年9月15日]

(ご参考) 自己株式の保有方針(2023年4月27日 取締役会において策定)

自己株式の取得については、資本効率の向上に資する株主還元策として、業績・資本の状況や株価を含めた市場環境を考慮し、機動的に実施いたします。一方で、将来の株式希薄化の懸念を払拭するために、自己株式の保有は発行済み株式総数の5%程度を上限とし、それを超過する部分は原則として消却いたします。

株主還元（配当金）

■ 1株当たり配当金について

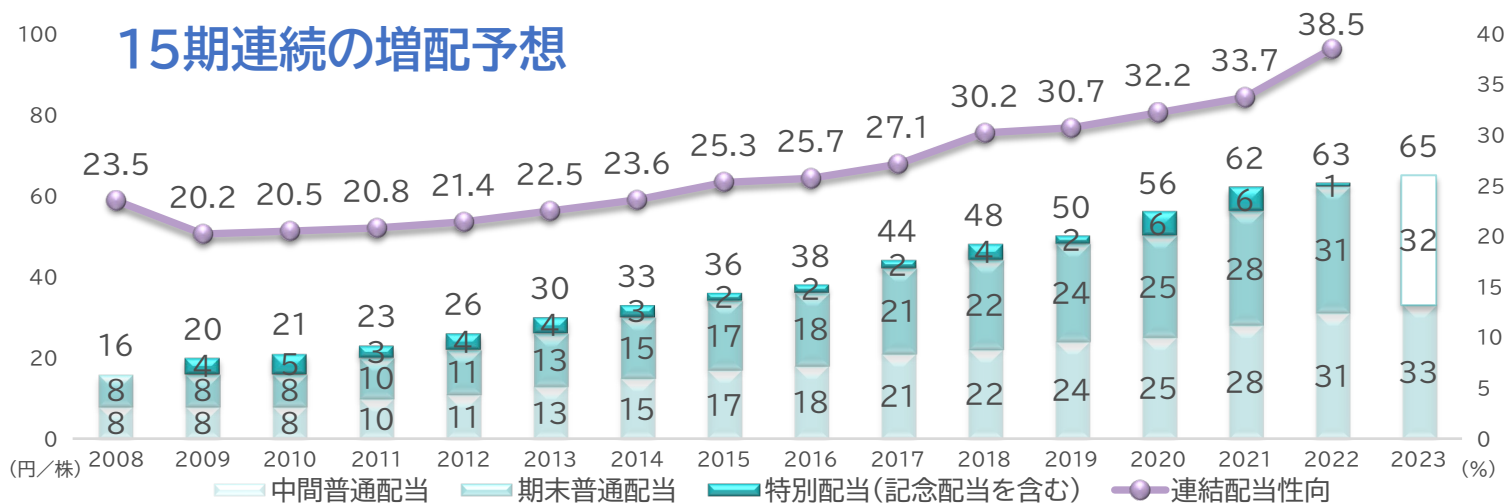
	年間	中間	期末
期初計画	: 63円 普通配当63円	32円 普通配当32円	31円 普通配当31円

当期	: 65円 普通配当65円 ※予想	33円 普通配当33円	32円 普通配当32円 ※予想
----	-------------------	-------------	-----------------

(ご参考)

前期実績	: 63円 普通配当62円、特別配当1円	31円 普通配当31円	32円 普通配当31円、特別配当1円
------	----------------------	-------------	--------------------

■ 1株当たり配当金、連結配当性向の推移



1. 2023年度 第2四半期 決算概要

2. 2023年度 通期業績予想

3. ビジョン2030実現に向けた取り組み

経営基盤の強化に向けた2023年度の取り組み

「積水樹脂グループビジョン2030」の実現



人的資本の 価値最大化

- ・ダイバーシティ&インクルージョンと
ウェルビーイング経営の推進
- ・人財育成方針の推進

成長戦略による拡大

- ・成長戦略の推進を担う
「グローイング事業本部」を新設
- ・新領域への進出(電力インフラ分野など)
- ・海外展開(交通安全製品)

サステナビリティ経営 の推進

- ・気候変動への対応と経営戦略との統合
- ・サステナブル目標の推進

将来に繋がる有効な投資

- ・人的資本投資
- ・成長投資
- ・環境投資 など

研究開発の強化

- ・AI/IoT技術の活用
- ・オープンイノベーションの活用
- ・サステナビリティ貢献製品EX



将来に向けた具体的な取り組み（投資推進）

①将来に繋がる有効な投資を積極的に推進

■ 人的資本への投資

- ・人財育成、キャリア人財の採用、ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- ・オフィス移転・リニューアル、工場の事務厚生棟改修による職場環境の変革 他
(BCP対策、セキュリティ向上、働きやすさ、フリーアドレス化)

■ 成長投資

- ・オープンイノベーションによるアグリ事業の新製品・新事業創出プロジェクト推進
- ・主要製品の生産能力拡大、売上拡大に向けた設備の増強
- ・デジタル化による販売・生産プロセスの革新 他

■ 環境投資

- ・高効率設備の導入、省エネ改修、再生可能エネルギーの活用拡大 他

■ 合理化投資

- ・原価低減活動による利益の創出 他

■ その他

- ・企業価値向上に向けたブランディング活動の展開
- ・各種展示会への出展 他



D&Iマネジメント研修(女性総合職の上司を対象)
(2023年7月)



SEKISUI JUSHI NEW AGRI PROJECT
(2023年5月始動)

将来に向けた具体的な取り組み（研究開発強化、社会実験）

②研究開発の強化

■ 推進体制の強化

- ・IoT技術による新たな事業領域拡大に向け、IoT推進室を新設

■ コア技術活用による新領域への進出

- ・AI/IoT技術を活用した新たな製品・サービスの創出(エコモット社との連携)
- ・三井住友海上火災保険株式会社と水災時の被災地の住民避難や災害対応の迅速化に貢献するIoT浸水深センサの共同開発を開始



IoT 浸水深センサシステムのイメージ

③社会実験への参画

■ 新たな路面公共交通システム「SRT」の導入に向けた社会実験に参画

- ・愛知県名古屋市が進めている新たな路面公共交通システム
SRT(Smart Roadway Transit)の導入に向けた社会実験に参画
- ・公共交通と歩行者を中心としたウォーカブルな(歩きやすい)空間と、バス利用者が乗り降りしやすい空間の形成を目指し、にぎわいと安全性が両立するまちづくりに貢献



将来に向けた具体的な取り組み（道夢道リニューアル、海外展開）

④性能確認試験走路「道夢道」リニューアル(2025年完成予定)

- ・サステナビリティ貢献製品および関連技術の見える化
- ・他社との協業推進により、サステナビリティ貢献製品の開発加速へ



性能確認試験走路「道夢道」

⑤海外展開の拡大

■ 東南アジアへの本格的な進出

- ・交通安全事業を欧州市場に続き、東南アジア市場にも本格的に進出し、海外展開を拡大する。
- ・東南アジアにおける交通安全製品の販売拠点としてタイ/バンコクに事務所を設置



The Road & Traffic Expo 2023 (タイ)



欧州で展開している交通安全製品

持続可能な社会の実現に向け 社会問題への対応や環境貢献活動を推進

■ ダブル連結トラックを利用した製品の輸送を開始

- ・ドライバーの働き方改革や CO₂ 排出量削減に貢献
- ・運送事業者と連携し、2024 年問題をはじめとする物流に関する課題解決を推進

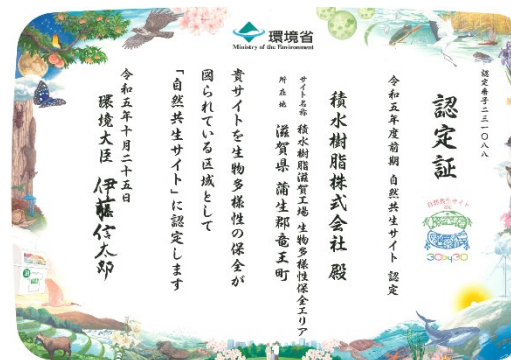


■ 生物多様性保全サイトの2か所が、「自然共生サイト」に認定

- ・環境省の「自然共生サイト」認定制度において、滋賀工場と物流センターの生物多様性保全エリアの2か所が認定評価

<自然共生サイト>

2021年6月のG7サミットで合意された「G7 2030年 自然協約(G7 2030 Nature Compact)」に基づく、日本における30by30の取り組みの一環



持続的な企業価値向上へ向けたグループ戦略

■「積水樹脂グループ サステナビリティレポート 2023」を発行

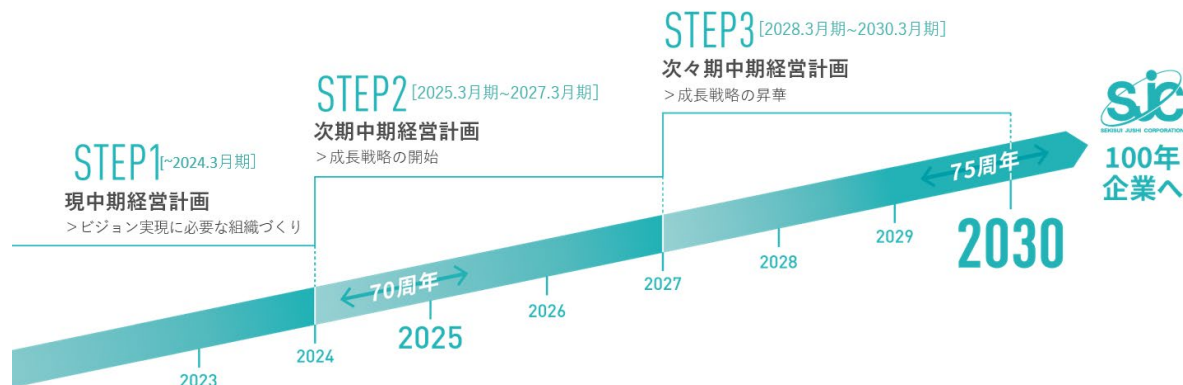
- ・事業活動を通じた社会課題解決の事例として、「サステナビリティ貢献製品 EX」5製品を紹介
- ・2023年5月に制定した「ダイバーシティ&インクルージョンポリシー」および「健康経営宣言」を掲載するなど、人財の多様性確保や活躍推進へ向けた当社の取り組みを紹介
- ・TCFD提言に基づく情報開示について、シナリオ分析および財務インパクト算出の結果を報告

URL : <https://www.sekisuijushi.co.jp/sustainability/>



■ 次期中期経営計画について

- ・現中期経営計画が2024年3月期で終了することを踏まえ、2027年3月期を最終年度とする次期中期経営計画の検討を開始
- ・次期中期経営計画では、持続的な企業価値向上のため、資本コストを意識した経営を推進



■内容に関するお問い合わせは

コーポレート統括本部 総務広報部 06-6365-3204

東京総務広報部 03-6758-1065 までお願いします。

■当社のホームページもあわせてご覧ください。

URL : <https://www.sekisuijushi.co.jp/>

本資料に記載されている将来に関する記述は、作成時点において入手可能な情報に基づくものであり、今後の事業環境の変化により、実際の業績が異なる可能性があります。